

令和6年8月1日

## 【巻頭言】

(理事長 野々村好三)

会員の皆様、こんにちは。熱い毎日ですが、お変わりなくお過ごしでしょうか。

6月には、5年ぶりとなる対面での総会を開催し、会員の皆様と実際にお会いすることができました。本会運営に対し積極的なご意見を頂戴するとともに、休憩時間には教科書点訳についての具体的なお話もでき、貴重なひと時となりました。秋が来れば、来年度の点字教科書製作がいよいよ本格化して来ます。皆様と手を携えながら、わかりやすく読みやすい点字教科書の製作に取り組んでまいりたいと存じます。今年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 【目次】

- 令和6年度定時総会報告
- 令和6年度第1回（通算38回）教点連セミナー報告
- 理事会報告

## 【令和6年度総会報告】

今年度の定期総会は、去る6月1日（土）、新宿リサイクル活動センターA会議室において開催いたしました。議題は以下の通りです。

- ①令和5年度事業報告
- ②令和5年度決算報告・監査報告
- ③令和6年度事業計画
- ④令和6年度予算

各議案については原案通り承認され、会運営についても積極的なご意見を頂戴しました。

今年度の事業実施につきましても、ご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 【令和6年度第1回（通算38回）教点連セミナー報告】

2024年6月1日（土）の午後、今年度第1回セミナーを東京新宿リサイクル活動センターで、会場参加とオンラインのハイブリッド方式で開催しました。会場には13名、オンラインは51名の方が参加されました。

講師に柴田直人（しばた なおと）氏（筑波大学附属視覚特別支援学校教諭）をお招きし、「文部科学省著作 小・中学部点字教科書「理科」の編集について」というテーマでお話しいただきました。

まず、点字教科書で取り上げられている図を例に、それぞれの図の工夫個所を説明されました。

体内の血液の循環図をサーモフォームという特殊なビニール用紙に熱を加えて図を浮き上がらせているものや、星座の位置を表す図などを紹介。特に星座の図では、点訳し校正を経る段階で、どのように点図に手を加えたかをお話しされました。星と星とをつなぐ線を最初は裏線で描いていましたが、しっかり生徒たちに注目してもらうため、表の線に変更したそうです。生徒に何を一番に注目させたいか、教員が何を教えたいかを定めて、その部分が際立つ線の種類を決めたり、図中に書く文字の位置などにもこだわって編集されています。

また、視覚支援学校用の教科書では、点字使用の生徒たちが指で触って理解しやすい教科書を目指し、内容にも配慮されています。例えば、「太陽の影」、「太陽の光」という単元があった場合、原点教科書は影→光の順に掲載されていても、そもそも太陽の光を理解していなければ影を知ることが難しいため、点字教科書では順番を変えることもあるそうです。また色の明度や光の明るさ、方向を音で確認できる「感光器」を使った実験を紹介したり、音声で確認できる方位磁針などの実験器具を掲載するなど、内容の差し替え・アレンジをされています。

グラフの書き方では、棒グラフの棒の幅が広いと指で線を辿っているうちにどこを触っているのかわかりづらくなるため、細目の幅にしたことや、グラフ全体を囲む線は左と下の縦軸と横軸のみにして、上と右の線は裏線にするといった細やかな配慮点も教えてくださいました。

小中学部の教科書は、4年に一度改定されます。改訂年度の前年度の6月に元となる原点教科書が選定され、7～8月に点字教科書編集会議が開かれます。8～10月にかけて、編集に関わった委員で、「点字教科書編集資料」を作成し、その後点字出版所で点訳に取り掛かります。原点教科書は、点字で学ぶ生徒が理解しやすいか、弱視の生徒も見やすいレイアウトになっているかを考慮して選ばれます。しかし、近年、どの出版社の教科書もビジュアル化されており、どの教科書を選定するかは悩ましいところのようです。なお、「点字教科書編集資料」は文部科学省のホームページからダウンロードすることができます。

最後に、柴田氏の話を受けて、参加者との質疑応答を行いました。副教材を視覚支援学校ではどのように用意しているかという質問については、これまで学校で使用してきた副教材があり、学習指導要領が変われば新たな問題に差し替え・追加するなどして活用している教材があることや、高校では校内の教材の点訳に協力してくださっているボランティアの方に依頼をしているそうです。

教科書の多様性にともない、各所に掲載されている QR コードの扱いをどうしているかという質問にたいして、小学校の理科に関しては補助的な内容ということから削除しているが、ただ、教科によっては役立つ情報もあり、その判断は極めて難しいと締めくくられました。

## 【理事会報告】

### ●令和 6 年度第 1 回理事会

日 時 2024 年 5 月 25 日（土）9：30～12：00

場 所 オンライン

参加者 池村、加藤、川元、鈴、野々村、藤下、三上、牟田口、山本、奥野（記録）

内 容

1、6 月 1 日総会・セミナーのスケジュールと準備するものの確認を行った

2、令和 6 年度総会について、流れと進行の確認を行った

3、6 月 1 日のセミナーについて

加藤氏より、講師の柴田先生が当日エーデル作成の点図 9 部を打ち出して持参されると報告があった。たいへん熱心に協力してくださっており、ぜひ感謝の意を表したい。

4、令和 6 年度入会金について

今年度の運用は保留にして次年度に定款変更を行う。

5、教点連の緊急電話対応について

該当月のみ、サブライン（転送サービス）の契約を考えてみては？

6、公共図書館からの問い合わせについて

目の見えるお子さんを持つ視覚障害のご夫婦から、お子さんが使用する教科書の点字版がほしいという依頼があり、教点連のホームページを見て連絡された。もし同じ教科書をすでに製作している場合、入手は可能かどうか。

→児童・生徒の教育保障と、保護者等の情報保障を同一にはいけないと思う。結論を急がずに検討した方がよい。

7、点字考案 200 年記念実行委員会の動向について

昨年度のアメリカでのカンファレンス参加費の負担分担について、本会として 10 万円を負担するよう発表があった。ここ数年納めている協力金とは別に支払うことになる。

→小さな団体ではこのような金額を負担することはかなり厳しい。今後、分担がある場合は早めに連絡してもらおうよう、点字考案 200 年の委員会に伝える

8、次回のセミナーについて

次回の理事会は、6 月 22 日（土）9：30～ オンラインにて

●令和6年度第2回理事会

日 時 2024年6月22日(土) 9:40~12:00

場 所 オンライン

参加者 池村、加藤、川本、鈴、野々村、藤下、山本、奥野(記録)

内 容

1、ホームページに本会の貸借対照表を掲載するか

「教点連とは」の中にR5年度、R6年度の内容をべた書きして貼り付けた。

2、前回の理事会でも報告した、公共図書館からの問い合わせについて検討を行った

3、文科省との交渉について

教点連の中でも教科書点訳における意識にばらつきがあるため、ボランティアグループと施設を含めた意見交換会を開き、現状をまとめてはどうか。

→9月4日(水)午後(午前に変更)か、9月7日(土)午前のどちらかで調整する

4、点字考案200年記念実行委員会の動きについて

毎年依頼のある活動分担協力金(40,000円)と、アメリカでのカンファレンス参加に伴う経費の分担協力金(100,000円)の依頼が来ており、支払いの手続きを進める。

7月20日(土)の午後に、アメリカカンファレンス報告会を大阪・玉水記念館を会場に、オンラインと併用で行う。詳細は、来週仕上がる予定で、会員にMLで周知する。

5、前回のセミナーについて

オンライン参加者:51名 会場参加者:13名

当日の感想(参加者より):今回は視覚支援学校用教科書の内容だったが、インクルーシブ教育用に作っている教科書の点訳方法を知りたい。

6、次回のセミナーについて

次回理事会で検討する

次回の理事会は、8月17日(土)9:30~

発行日:令和6年8月1日

発行所:NPO法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

ホームページ:<http://kyotenren.web.fc2.com/>

発行人:野々村 好三

ニュース発送元:(社福)名古屋ライトハウス法人本部

〒466-0855

名古屋市昭和区川名本町1丁目2番地

本会 E-mail: [info@kyotenren.org](mailto:info@kyotenren.org)

振込口座番号:00180-7-262151

口座名義:全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

